

「キッズリサーチ」

三宅島で考える「学び」

「キッズリサーチ」は、二〇一二年八月十八日から二十六日の九日間、東京都三宅島に加藤文俊研究室の学生数名が滞在し、島の子どもたちを対象に行った取り組みだ。これは、三宅島の小中学生が、大学生と共に島の魅力について学び、その活動を通じて人や世界との繋がりをを感じるひとつの機会となることを目的として行った。

午前中は、教室での学びだ。「寺子屋」のように、子どもたちは学校の宿題や夏休みの読書感想文など、各自でやりたい勉強を「三宅島大学」に持ち寄る。大学生は先生役となつて、丸つけをしたり、子どもたちの分からない部分を教えたりした。大学生との交流の中で、勉強を習慣化することを目指した。

午後は、からだを使った実践的な学び。今度は子どもたちが先生役となり、自分たちが暮らしている島について大学生に教える。他人に教えることを通じて、島の子どもたちにとって当たり前になっていく「魅力」を再発見する。「よそ者」の大学生がいることで、自分たちの暮らしを見つめなおした。

子どもたちと探す「魅力」

島の魅力、といっても人それぞれだ。お気に入りの場所へ子どもたちと一緒に、写真を撮りに出かける。撮ってきた写真は、印刷して黒板に大きく描かれた地図にプロットする。子どもたちの目線で島を切り取った写真には、島で暮らす子どもたちならではの遊び場や港の風景が記録されていた。その場所のどこに魅力を感じるのか。写真を撮るだけでなく、たくさん子どもたちとそれを共有することで、自分ならではの視点を実感する。お気に入りの場所探しが、島やものの見方を変えるきっかけになるといい。

他にも、子どもたちが島の好きなところを文章や絵で表現し、それをまとめたものをかわら版として発行した。このかわら版は、島の商店や船待合所など、多くの箇所配布させてもらった。自分のからだを使つて好きなことや気になることを探し、それを今度は頭を使って写真や映像、絵、文章など、他のひとにも伝えるように、成果物にまとめる。こういった活動を見てくれた島のひとたちから、たくさん言葉を貰うことが出来た。

人びととの「つながり」

普段あまり接することのない大学生に対して、子どもたちは、はじめ表情が硬かった。しかし、日を重ねる毎に「おはよう！」と言って元氣に入ってきて来るようになった。大人でもなく、かといって同級生でもない大学生という存在は、子どもたちの目には新鮮だったようで、島のことや自分のことについて色々な話をしてくれた。

さらに、子どもたちと島を歩くなかで、島の人の関わりも生まれた。様子を見に来た保護者の方とも話す機会が増え、「ありがとう」という言葉を貰った。たまに、「差し入れたよ」と言って、西瓜やご飯のおかずを持ってきてくれることも。子どもたちとの活動だったからこそ、生まれたつながりというものを感じた。

この「三宅島大学キッズリサーチプロジェクト」が、島の子どもたちにとどこまで影響を及ぼすことが出来たのかは、まだわからない。しかし、何度もこの機会を重ねていくことで、子どもたちが三宅島のことを少しずつでも考え、三宅島だけでなくその外に拡がっている世界についても考えるきっかけになればいいと考える。

(文責：青山大毅 竹下紬)

慶應義塾大学 環境情報学部 加藤文俊研究室

青山大毅 新飼麻友 竹下紬
龍山千里 森部綾子 吉田あんな

三宅島大学キッズリサーチプロジェクト日程表

2012年8月

日付	18日	19	20	21	22	23	24	25	26
午前	寺子屋								発表会
午後	地図	写真	映像	絵	かわら版	写真	映像	絵	